参加記

SfN2018 参加記

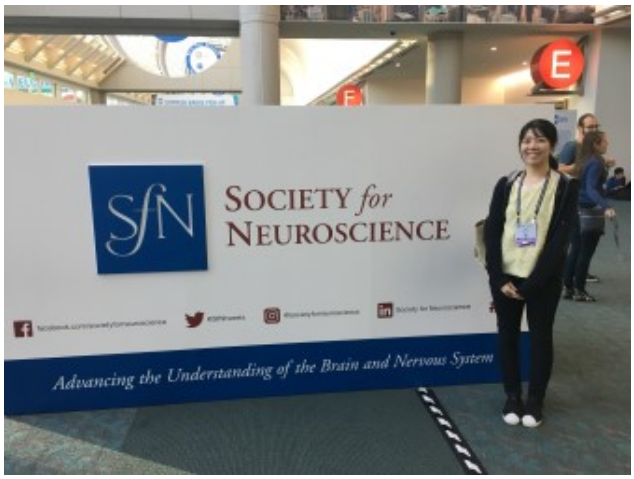
東京大学 大学院薬学系研究科
薬品作用学教室
薬学博士課程 3 年 大内 彩子

2018 年 11 月 3 日から 7 日までの 5 日間、私はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにて開催された Society for Neuroscience (SfN) 2018 に参加してまいりました。サンディエゴは温暖で、日本と比べると湿度が低く、カラッとして過ごしやすい天気でした。

私は今回の学会参加に際し、光栄なことに JNS-SfN Exchange Travel Award を受賞させて頂きました。受賞者は、International Fellows Orientation Session と International Fellows Poster Session という 2 つのイベントに日本神経科学学会を代表して参加することができます。International Fellows Orientation Session は学会初日の朝、サンディエゴコンベンションセンターに隣接しているホテル、Hilton Bayfront の一室で開かれました。本セッションには、JNS 以外にも他学会 (LATP、IBRO) の受賞者と共に参加しました。主にアルゼンチンやブラジルなどラテンアメリカからの大学院生や研究員が多いのが印象的でした。講師の方からは、プレゼンのコツや、他の研究者への自己アピールの仕方、学会での過ごし方や振舞い方についてレクチャーして頂きました。「発表には自分の研究に興味を持ってくれた人が来てくれるのであって、評価をされるわけではない。だからこそ、興味を持ってくれた相手とうまくコネクションを作ることが大事だ。」という言葉が印象に残っています。初日で緊張状態にあったからか、これを聞いて良い意味で肩の力が抜けた記憶があります。セッションの後半では、発表の練習も兼ねて、他の参加者と英語で自己紹介をし、自分の研究について話す時間を設けられました。こういったレクチャーを受ける機会はなかなかないので、貴重な経験ができたことを嬉しく思います。同日夜には、コンベンションセンターの一角で International Fellows Poster Session が開かれました。受賞者同士で発表するものだと思っていましたが、一般の参加者の方々にも気軽に聞きに来ていただけるようになっており、とても有意義な時間を過ごすことができました。

私の本大会でのポスター発表は、学会 2 日目の午前でした。私は、海馬歯状回に存在する苔状細胞に注目し、CA3 野 - 歯状回の局所回路における情報処理機構について研究をしています。解析が少し複雑で、理解してもらえるかどうか不安でしたが、研究の質をより良くするために参考になる具体的なアドバイスをいただくことができました。また、論文発表を楽しみにしているよ、と複数の方にコメントをいただき、とても励みになりました。未発表データを発表することは、研究アイデアを奪われてしまうリスクは多少あるかもしれませんが、多様なバックグラウンドを持つ研究者から質問やコメントをいただけるため、自分の研究を早い段階で見直し、より良い論文にブラッシュアップするための貴重な機会になると改めて感じました。いただいたご意見をもとに更なる発見に結びつけ、再び SfN で世界中の研究者と議論したいと強く思いました。

SfN では膨大な演題数があり、事前に要旨をチェックしていても興味のある演題を見逃してしまうことがあります。私は、前回参加したときの反省を踏まえ、本大会では広大なポスター会場をひたすら練り歩くことにしました。検索では見つけられなかった面白そうな研究を目にしては立ち止まり、演者から直接話を聞けたのはとても楽しかったですし、自分では思いつかなかった解析のアイデアを発見できたのは収穫でした。SfN に参加するのは昨年に続き 2 回目でしたが、昨年までは新しい技術として発表されていたものが、今年は当たり前の技術として、より多くの研究グループから発表されていたのが衝撃的でした。世界の研究スピードを体感できたとともに、私の研究も速く着実に成果を出していかなければいけないと焦燥を感じました。今回は International Fellow として貴重なセッションに出席する機会をいただけたことで、多くの刺激を受けることができたとともに、自分の研究を改めて見直す良い



ポスター会場の前にて

10 February 2019 Consecutive Number 217

契機になったと思います。

最後になりましたが、この度の JNS-SfN Exchange Travel Award の運営に際しご尽力下さった JNS および SfN の関係者の皆さま、そして日頃よりご指導いただいている池谷裕二先生をはじめ、各所でお世話になった諸先生方へ、この場を借りて心より御礼申し上げます。

参加記

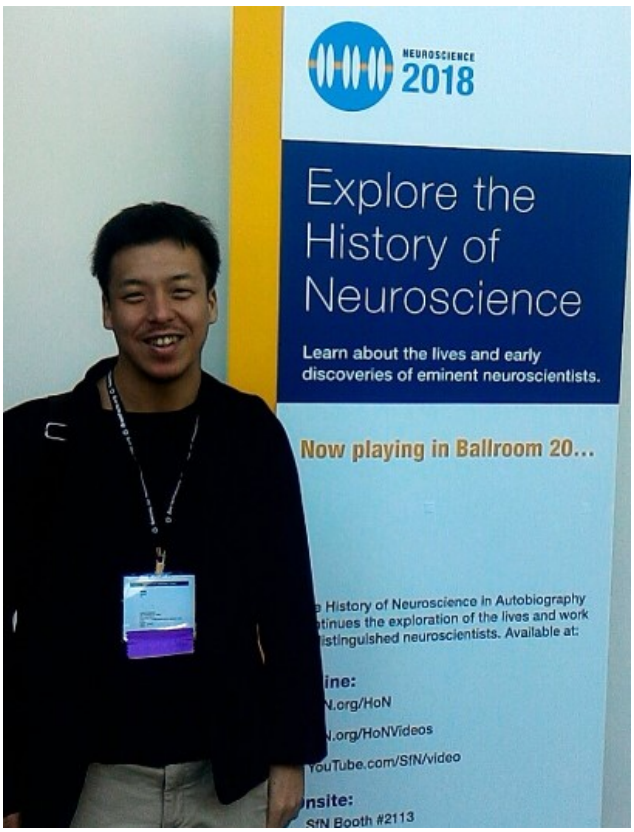
SfN 参加記

東京大学大学院医学系研究科
システムズ薬理学教室
博士課程 4 年 村上 達哉

10 February 2019 Consecutive Number 217

2018 年 11 月 3 日から 7 日までカリフォルニア州サンディエゴで開催された北米神経科学会に参加してきました。北米神経科学会には二年前に同じサンディエゴで開催された際にも参加しており、今回が二度目の参加となります。この二年の間でサンディエゴに起こった変化といえば、ドックレスタイプのシェア電動スクーターが爆発的に普及し街の至ることで電動スクーターが置かれていることです。筆者も早速利用し、毎日宿からの往復 15 分ほどさわやかなカリフォルニア風を感じながら学会会場に通っていました。モバイルアプリをインストールするだけで非常に簡便に使用出来るようになっており、タクシーを利用するよりもはるかに安価なので皆様もサンディエゴで開催される北米神経科学会に参加される場合は是非とも利用されると良いと思います。

本題の学会ですが、初日はインターナショナルトラベルアワードの受賞者が参加する International Fellows Orientation Session に参加することから始まりました。日本神経科学学会をはじめとする世界各地に存在する現地の神経科学会から選抜された優秀な若手研究者たちが参加します。特に南米の神経科学会は力を入れているのか、セッション参加者の大半はアルゼンチン、ブラジルをはじめとする南米の出身者でした。内容は過去の体験記に書かれている内容とおそらくほぼ同じで、主には学会に参加する心得の様なものの説明を受けました。歩きやすいシューズを履きなさい、興味を絞って選んだセッションに最後まで参加しなさい、と言った具体的事柄まで事細かに説明を受けました。また、エレベータートークの練習と言うことで三人ほどを順番に簡単な自己紹介をし合うという手短なトレーニングを行いました。スモールトークはおしゃべり好きなアメリカ人でも苦手に感じる人が少なくないと言います。しかしながら同じ神経科学の研究者同士なので話を簡単に盛り上げることが出来るということが実感できました。セッション全体を通して、司会者の方も毎年担当をしているからか慣れている様子で冗談を混ぜながらの和やかな雰囲気で終わりました。



学会会場メインホールの前にて